

熊本県秩父帯球磨川東域の下部白亜系

田中 均 (熊大・教育)・高橋 努 (八千代 E (株))・利光誠一 (産業技術総合研究所)

Lower Cretaceous of the Chichibu terrane in the eastern parts of the Kuma River, Kumamoto Prefecture

Hitoshi TANAKA, Tsutomu TAKAHASHI and Seiichi TOSHIMITSU

熊本県の秩父帯 (黒瀬川帯) に位置する八代山地およびその周辺地域には、下部白亜系堆積岩類が広く分布している。この下部白亜系については、松本・勘米良(1964)による詳しい報告があり、下位より海浦層、川口層、八竜山層、日奈久層、八代層および砥用層に区分され、四国の物部川層群に対比されていた。その後、田代・池田(1987)は、八代山地を再調査した結果、当地の下部白亜系が四国の物部川層群に対比される地層群とそれとは岩相および化石相が異なる先外和泉層群 (袈裟堂層および八代層) とに識別されることを明らかにした。最近、田中ほか(1998)は川口層や八竜山層が袈裟堂層の下位に連続する地質体であることを明らかにし、先外和泉層群は下位より川口層・八竜山層・袈裟堂層および八代層に 4 累層に区分されるとともに物部川層群相当層は小原層・三峰山層・日奈久層の 3 累層に区分されたとした。

この度、宮地帯と日奈久帯の下部白亜系の分布域の調査がほぼ終了し、それらの岩相層序と産出化石 (中九州層群=テチス型動物群; 物部川層群相当層=テチス北方型動物群) を検討した結果以下のように取りまとめることができる。

(白杵-八代構造線)

【宮地帯】

中九州層群

物部川層群相当層

- ・八代層 (アルビアン下部 [その比較的上部])
- ・砥用層 (アプチアン上部~アルビアン下部)
- ・宮地層 (アプチアン)

(猫谷構造線)

【日奈久帯】

中九州層群

物部川層群相当層

- ・日奈久層上部層 (アルビアン下部)
- ・東陽層上部層 (アプチアン上部~アルビアン下部)
- ・日奈久層下部層 (アプチアン)
- ・東陽層下部層 (アプチアン)
- ・袈裟堂層 (バレミアン上部~アプチアン)
- ・三峰山層 (バレミアン)
- ・八竜山層 (バレミアン)
- ・小原層 (オーテリビアン)
- ・川口層 (バラングニアン~オーテリビアン)

(深水構造線)

従来の知見と大きく異なるところは、日奈久帯の下深水北方の稜線付近に八代層が分布するとされていたが、これは日奈久層下部層の礫岩であってここには八代層は分布しない。また、日奈久帯の東陽層下・上部層は宮地帯の宮地層および砥用層にそれぞれ対比されることが明らかになった。